

# 経営比較分析表（平成28年度決算）

神奈川県 愛川町

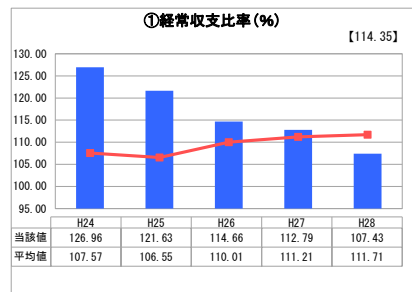
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	72.66	67.81	2.070	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
40,955	34.28	1,194.72
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
27,700	30.00	923.33

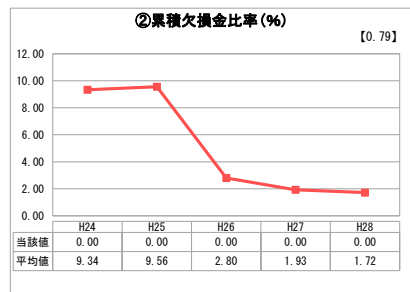
**グラフ凡例**

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

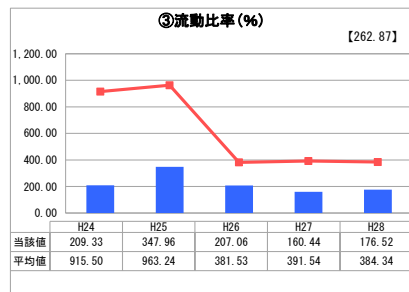
## 1. 経営の健全性・効率性



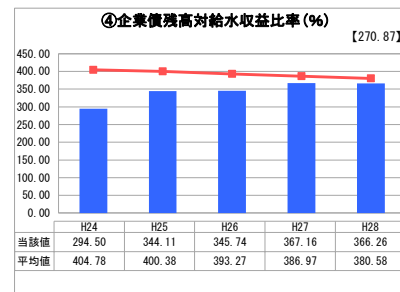
「経常損益」



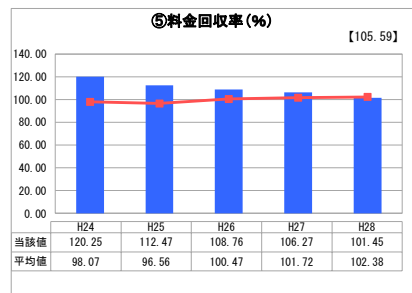
「累積欠損」



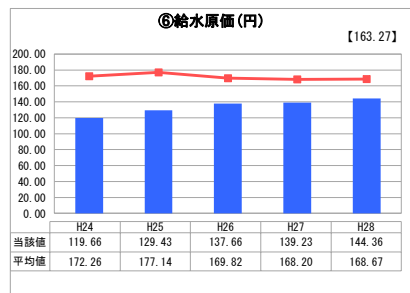
「支払能力」



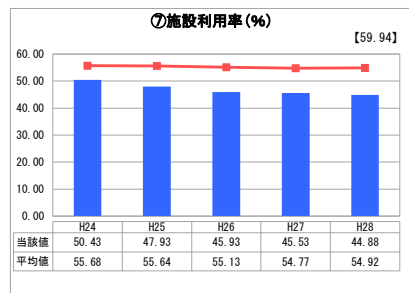
「債務残高」



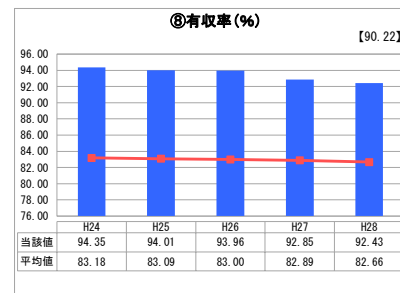
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

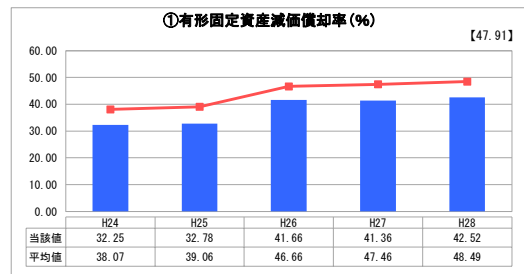


「施設の効率性」

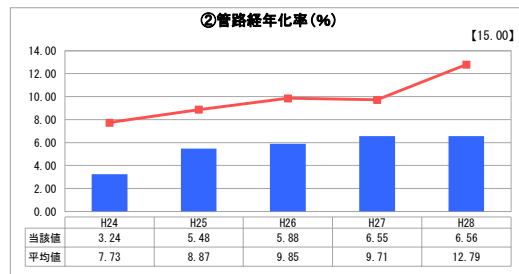


「供給した配水量の効率性」

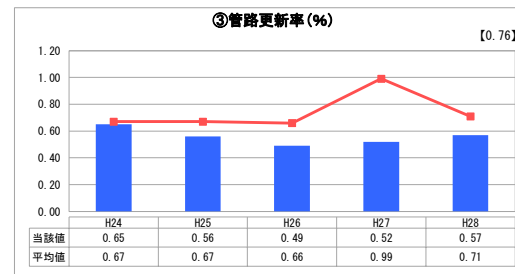
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ・料金収入の減少が続いた影響で、経常収支比率や回収率の低下が続く類似団体平均を下回りました。
- ・給水原価は設備投資により減価償却費が増加した影響などで、類似団体平均は下回るものの増加傾向にあり料金収入の減少とともに経常収支比率減少の原因となっております。
- ・経常収支比率、回収率、流動比率はいずれも類似団体平均は下回るものの100%を越えており、欠損金も0であり経営の健全性は保たれております。
- ・企業債残高対給水収益比率は類似団体平均よりやや低く前年より微減となりました。過去の借入の償還完了により企業債残高が減少したためです。
- ・施設利用率は類似団体平均を下回り50%以下となっております。今後は設備の整理縮小も検討する必要があります。
- ・有収率は高い水準ではあるものの毎年微減が続いております。

### 2. 老朽化の状況について

- ・有形固定資産減価償却率・管路経年率が類似団体平均より低い数値にあります。これは、管路をはじめとする固定資産が比較的新しく老朽化の進行が緩やかであると分析されます。しかし、数年後には耐用年数を越える管が増えて急速に経年率が上昇します。
- ・管路更新率は、管路以外の耐震化や設備更新などにも費用が必要であり管路の老朽化も進んでいないことから、類似団体平均より低い数値であります。

### 全体総括

- ・経常収支比率や料金回収率について平成28年度は類似団体平均を下回るなど厳しい経営状態に変わりつつあります。
- ・経常収支比率、回収率ともに100%を越えているとはいえ、毎年減少しており平成10年から据置している料金についても見直しが必要な時期が近づいております。
- ・有形固定資産減価償却率や管路経年率が低いので現時点では更新投資の先送りをしている状況ではありません。
- ・管路経年率が低いとはいえ、今後は老朽化が進むため管路更新率を上昇させていく必要があります。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の実績を基に類似団体平均値を算出しています。